

〇脚、X脚について

→ こどもの〇脚、X脚

Q. 2歳の孫は生まれつき、あしが彎曲して「がに股」になっています。元気ですが、みっともない感じがします。どこかで治療をうけるべきでしょうか。

A. 整形外科では下肢が内方凹の湾曲をしめす変形を内反膝と称し、両側同程度対称的にみられるときは、〇次型を呈するので〇脚といいます。

ご質問の「がに股」というのは、おそらく〇脚のご心配のことと推察いたします。

こどもが立ち上がり、そして歩き始める、周囲の人々にとってその成長を見るのはとてもうれしいことです。また同時にその歩き方が気になるご両親、祖父母もたくさんおられます。

まずはこどもの下肢形態の発達過程を理解していただくことが重要です。

赤ちゃんはお母さんのおなかの中では下肢を丸めており、生まれてくる時は殆どが〇脚です。

しかし、多くの場合、歩き始めの1歳頃はまだ〇脚が残存しています。

その後、どんどん改善し、3歳から4歳では、むしろX脚傾向となり、5歳から6歳にまっすぐな下肢になるというのが正常の発達過程です。

したがって、1歳から2歳ごろの〇脚は殆どの場合が生理的なものであり、あまり心配することはありません。

また、〇脚は膝から下が内側へねじれていることが多く、足先が内側を向く歩行をしますが、これも徐々に改善していきます。

まれですが、見逃してはいけない〇脚もあります。

1. 程度の強いもの

(お子さんを上向きに寝かせ、足の内側をくっつけ、膝と膝の間に指が3本以上入るもの)

2. 左右の膝の形が異なるもの

3. 低身長を伴うもの

これらは骨の先天的な病気や膝の骨の成長線の障害を呈する病気などの可能性もあります。

これらの所見がある場合は、専門医の診察を受けられることをおすすめします。

あいち小児保健医療総合センター

整形外科部長 服部 義

【中日新聞「紙上診察室」2006年2月18日掲載】